

○協同組合・生協全般（1項～4項）

『協同組合を学ぶ』中川雄一郎・杉本貴志編／全労済協会監修（日本経済評論社、2012年）

協同組合の歴史や特徴について書かれた入門書。世界の協同組合についても紹介されている（→4項「さまざまな生協」）。また、本号では取り上げていないが、日本の共済協同組合の歴史に関する章もある。

『新 協同組合とは—そのあゆみとしくみ—〈四訂版〉』日本協同組合連携機構編（日本協同組合連携機構、2018年）

協同組合の特徴が協同組合原則に沿って丁寧に解説されている。現代社会における協同組合の可能性や今後のあり方を、原則に立ち返って考えることができる。

『現代日本生協運動小史〈改訂新版〉』斎藤嘉璋（コープ出版、2007年）

本書の内容は、日本生協連によって編纂された『現代日本生協運動史（上下巻）』（2001年）をコンパクトにしたもので、改訂新版では2000年代前半の動向も加えられている。戦前の生協運動を含めて、地域の購買生協に限らず様々な生協に関する生協運動の歴史がまとめられている。

『協同組合論—ひと・絆・社会連帯を求めて—』庄司興吉・名和又介編（全国大学生生活協同組合連合会、2013年）

本書は、2012年夏季に大学生を対象に京都コンソーシアムで行われた国際協同組合事業・大学生協寄附講座を基にしている。生活協同組合、労働金庫、農業協同組合（JA）、漁業協同組合、大学生生活協同組合、医療生活協同組合など様々な協同組合について網羅的に説明しており、協同組合の役割を多様な視点から再考する上で役立つ。

○生協の商品開発・宅配・店舗（5項～7項）

『日本—要求の多い消費者たち—非常識を常識に変え続ける生活クラブのビジョン—』小澤祥司（ダイヤモンド社、2019年）

本書は生活クラブ生活協同組合の活動を紹介するものであり、歴史や個別事例を通して組織のありようを知ることができる。特に第3章では、生産者と組合員が対等に意見を交わし、消費財（商品）開発を行なっていく、生活クラブ生協独自のしくみが明らかに

されている。

『**協同による社会デザイン**』 小木曾洋司・向井清史・兼子厚之編（日本経済評論社、2019 年）
「地域と協同の研究センター」内の「生協の（未来の）あり方研究会」の研究成果をまとめたものであり、『未来を拓く協同の社会システム』（日本経済評論者、2013 年）の内容を発展させたものである。各専門分野の研究者による第一部と、生協の実践者による第二部により構成されている。とくに第 5 章は、消費者像が多様化する格差社会に生協がいかに対応していくべきか、生協の商品開発・宅配・店舗事業それぞれの課題を明らかにしている。

『**くらしと協同 No.14**』（くらしと協同の研究所、2015 年）

『“CO-OP”と「商品」の現在地』という特集が組まれている。メーカー、生産者、地域生協という異なる視点から、実際に販売されている PB 商品の事例を通じて、生協の販売する商品の役割を説明している。

○高齢社会と生協（8 項）

『**2050 年超高齢社会のコミュニティ構想**』 若林靖永・樋口恵子編（岩波書店、2015 年）

超高齢社会における地域コミュニティの変容や課題に生協はいかに対応していくべきかを研究するために、生協総合研究所「2050 研究会」(2013 年～2015 年)が立ち上げられた。本書はその研究成果をまとめたものであり、超高齢・少子・人口減少・単身社会となることが予測される 2050 年に地域コミュニティで平穏に暮らすための提言をとりまとめる。

『**2050 年新しい地域社会を創る―「集いの館」構想と生協の役割―**』 生協総合研究所編（東信堂、2018 年）

前書で示された構想の具現化と地域生協のミッション・ビジョンに対する提言を行った第 2 次 2050 研究会（2016～2018）の成果をまとめたものが本書である。それぞれの地域にあわせてコミュニティ構想を行うために、ワークショップを行うことを推奨する。ワークショップの具体的な進め方のみならず、個別事例も紹介している本書は、不確実な未来に向けて地域社会のあり方や地域生協の役割を再考するうえで参考になるだろう。

○生協の運営・生協職員（9 項、13 項）

『新時代の協同組合職員―地位と役割―』堀越芳昭・日本協同組合連携機構編
(全国共同出版、2018 年)

(1) 同組合職員の地位と役割 (2) 協同組合理念と日常業務の関係 (3) 協同組合教育のあり方への示唆・提言という 3 つの研究課題に沿いつつ「新時代の協同組合職員」について各論者の主張が展開されている。日本協同組合連携機構内の「協同組合における職員の地位と役割研究会」による研究書。

『ダイバーシティ経営と人材マネジメント―生協にみるワーク・ライフ・バランスと理念の共有―』佐藤博樹編著（勁草書房、2020 年）

「生協職員の仕事と生活に関するアンケート」をもとに、就業継続意思へのワーク・ライフ・バランスを中心とする諸要因の影響を分析し、さらに女性パート職員の仕事満足やキャリア志向についても分析している。生協総研内のワーク・ライフ・バランス研究会による研究書。

○生協産直・農協（10 項、11 項）

『生協産直、再生への条件―「ホンモノ」と「顔の見える関係」を求めた 30 年―』
山本明文（コープ出版、2005 年）

生協産直は生協ごとに多様な取り組みがみられるが、複数の生協や産地へのインタビューにもとづく本書は、その誕生から 2000 年代前半までの流れをつかむうえで参考になる。

『1 時間でよくわかる楽しい JA 講座』北川太一（家の光協会、2014 年）

JA がもつ協同組合の特徴や仕組みについてわかりやすく解説されている。各項の冒頭では、JA に関する疑問や組合員の関わり方が漫画で示されるなど、JA に馴染みがない人に読みやすいものとなっている。

○生協と震災（12 項）

東日本大震災における協同組合の活動を紹介するものとして、日本生活協同組合連合会から「シリーズ・これからの地域づくりと生協の役割」が出版されている。これらの書籍は震災の貴重な記録であると同時に、いかなる復興支援が求められているか、また、次の自然災害にたいしていかに備えるべきか考える上で役立つ。

『被災地につなげる笑顔 ―協同の力で岩手の復興を―』西村一郎（コープ出版、2012 年）
シリーズ一冊目では、東日本大震災で被災した岩手県における復興の取り組みが紹介されている。筆者は『悲しみを乗り越えて共に歩もう―協同の力で宮城の復興を―』（合同出版、2012 年）において宮城県の取り組みを、シリーズ三冊目である『3.11 忘れない、伝える、続ける、つなげる―協同の力で避難所の支援を―』（コープ出版、2013 年）において福島県の取り組みを紹介している。

『くらしとともに地域とともに―寄り添う力で未来をつくる―』永井雅子（コープ出版、2012 年）
その名の通り、東日本大震災の被害は広範囲に及んだ。シリーズ二冊目である本書は「もう一つの被災地」として千葉県を取り上げ、生活協同組合ちばコープの震災対応および被災地復興支援の取り組みを紹介する。

『タオルの絆―" あいち " からこの想いとどけたい―』野口武（コープ出版、2015 年）
シリーズ四冊目である本書は、東日本大震災の被災地から離れた愛知県の生活協同組合コープあいちが取り組む震災復興支援を紹介する。一つは岩手県気仙地域における活動であり、もう一つは愛知県内の広域避難者への支援である。

○生協の組合員活動（第 14 項）

『くらしと協同 No.11』（くらしと協同の研究所、2014 年）

『協同組合が結ぶ「つながり」の今』という特集を組み、協同組合の「つながり」づくりの実態を紹介している。医療福祉生協、高齢者生協、大学生協などを例として、組合員活動による組合員同士や組合員と地域などの様々な「つながり」づくりの事例が掲載されている。

『『おしゃべりパーティ』によるコミュニティの再建―協同組合の『絆』づくりの試み―』
公募研究シリーズ 36 加賀美太記・青木美紗・片上敏喜
(全国勤労者福祉・共済振興協会、2014 年)

日本の生協の特徴である「班」活動がかつて担ってきた役割の 1 つとして組合員同士のつながりづくりがある。「班」に代わる新しい組合員同士のつながりづくりの役割として、「おしゃべりパーティ」に着目した研究をまとめた報告書。一般に出版はされていないが、全労済協会のホームページから全文読めるようになっている。

https://www.zenrosaikyokai.or.jp/znr_hp/wp-content/uploads/2017/04/koubo36.pdf

季刊号



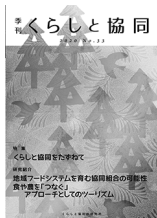
2021 (第 35 号)
2021.03.25 発行

特集
手ざわりある情報技術の使い方
総論
AI を多面的に考える



2020 (第 34 号)
2020.12.25 発行

特集
コロナに克つ～つながりと協同の
新たな地平へ
座談会
コロナ禍のもとでのくらしと生協



2020 (第 33 号)
2020.09.25 発行

特集
くらしと協同をたずねて
研究紹介
地域フードシステムを育む協同組合の可能性
食や農を「つなぐ」アプローチとしての
ツーリズム



2020 春号 (第 32 号)
2020.03.25 発行

特集
サステナブル・コミュニティ=やさしく、
しなやかに続く地域をつくる
総論
脱プラスチック社会は可能か



2019 冬号 (第 31 号)
2019.12.25 発行

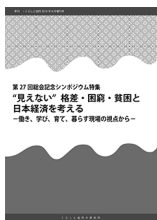
特集
多様な立場から考える食の科学技術
ーゲノム編集技術に着目してー
総論
科学技術とどのように向き合うか



2019 秋号 (第 30 号)
2019.09.25 発行

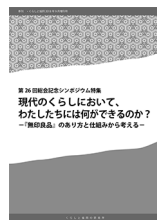
特集
新たな時代の、新たな流通 生協は
何に、どう対応すべきなのか？
総論
キャッシュレス社会考

増刊号



2019 年 9 月増刊号
2019.09.25 発行

第 27 回総会記念シンポジウム特集
“見えない” 格差・困窮・貧困と
日本経済を考える
ー働き、学び、育て、暮らす
現場の視点からー



2018 年 9 月増刊号
2018.09.25 発行

第 26 回総会記念シンポジウム特集
現代のくらしにおいて、
わたしたちには何ができるのか？
ー『無印良品』のあり方と
仕組みから考えるー

編集後記

本号は、生協のことを初めて学ぼうという方、そして生協について改めて学び直そうという方に向けて、特別に編集した特別号となっています。くらしと協同の研究所は、生協の現場で活動する実践者と、生協を学術的に探求する研究者とでつくりあげている研究所ですから、それぞれの項目について、研究者が研究成果に基づいてやさしく解説し、実践者が自らの経験と想いを語るという構成としてみました。生協組員や職員の学習・研修の場で、また学校教育の場で、活用していただくことを願っています。(志)

季刊 **くらしと協同** (第 36 号) 2021 年 6 月 25 日 発行

編集企画	『くらしと協同』編集委員会	電 話	075-256-3335
編集長	杉本貴志	F A X	075-211-5037
発行所	くらしと協同の研究所	E-mail	kki@ma1.seikyoku.ne.jp
理事長	若林靖永	U R L	http://kurashitokyodo.jp
住 所	京都市中京区烏丸通二条上る蒔絵屋町 258 コープ御所南ビル 4F (〒604-0857)		